

府食第84号
令和3年2月25日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

令和3年度食品安全確保総合調査課題（案）について

このことについて、令和3年2月3日に開催した令和2年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会（第8回）における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします

(別添)

令和3年度

食品安全確保総合調査課題（案）について

令和3年2月

食品安全委員会 研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

令和3年度食品安全確保総合調査課題（案）

<調査課題名>

野生動物由来の食肉中のハザードに関する調査

<調査の概要>

現在、国内ではシカやイノシシなど野生動物の生息数の増加による農作物被害が大きな問題となっていることから、その捕獲が進められるとともに、野生鳥獣肉（ジビエ）を食用として利活用する取り組みが全国的に拡大している。

しかしながら、野生動物は、牛や鶏などの家畜・家きんと異なり、餌や飼養方法などの管理が実施されていないため、腸管出血性大腸菌 O157 や E 型肝炎等の病原微生物や寄生虫を保有している可能性がある上、食用にとさつ・解体するときの疾病の有無等を確認するための公的検査が義務付けられていないことから、野生鳥獣肉には、食品衛生上のリスクが存在すると考えられている。これらのことから、国内のリスク管理機関は、野生鳥獣肉の衛生管理に関するガイドラインに基づく狩猟者や食品取扱事業者による衛生管理の実施、野生鳥獣肉は中心部まで適切に加熱することについての消費者への周知等により、野生鳥獣肉を原因とする食中毒の被害防止に取り組んでいるところである。また、食品安全委員会では、平成 25 年 2 月に、「ジビエを介した人獣共通感染症」に関するファクトシートを作成し、そのリスクに関する情報提供を行っている。

一方で、家畜のような飼養管理や公的検査が実施されていないこと等の理由により、シカやイノシシ等の国内の野生動物が保有するハザード（細菌、ウイルス、寄生虫等）の実態（宿主、汚染状況等）については未解明な部分が多く、将来の食品健康影響評価等を検討するためには、体系的な関連情報の収集及び整理が行われていない状況にある。

さらに海外においては、国内では一般に食用に供されていない野生動物の食用実態があるとされており、これらについては、今後、輸入食品として国内でも流通・消費される可能性があることを考慮すると、それらの野生動物由来の食肉中のハザードの実態について網羅的に把握しておくことも必要である。

本調査では、今後、食品健康影響評価等を行うにあたり参考となる上記の野生動物由来の食肉中ハザードの実態に関する情報を収集することを目的とする。

<調査課題名>

特定の新規食品の安全性評価手法等に関する調査

<調査の概要>

世界的なたんぱく質の需要の増加に伴い、持続可能な食料供給の観点から、新技術を用いた代替肉や培養肉等の代替たんぱく質についての研究・開発が進められている。これを踏まえ、代替たんぱく質の安全性評価手法の検討に資するため、代替肉（植物原料をベースにした、食肉の代替となる食品）、培養肉（動物から筋肉細胞や幹細胞等を抽出し、培養器等で増殖させた食品）、昆虫食、昆虫由来飼料、その他代替たんぱく質食品に関する国内外の知見の収集及び整理を実施する。

<調査課題名>

化学物質のリスク評価における不確実係数の設定に関する調査

<調査の概要>

薬物動態や作用メカニズムを考慮した CHEMICAL-SPECIFIC ADJUSTMENT FACTOR*（以下「CSAF」という）により不確実係数を分解する考え方や CSAF を求めるために必要なデータ等について、IPCS/WHO や米国 EPA においてガイダンスが作成されている。

食品安全委員会では、基本的には、不確実係数/安全係数を 100 としているが、国際的な動向等を踏まえ、CSAF のリスク評価への適用及び *in vitro*、*in vivo* の実験データのヒトへの外挿に関する研究実施の検討を行うため、CSAF に関して国際機関や海外のリスク評価機関におけるガイダンスやその手法による化学物質（食品中の汚染物質、食品添加物、農薬等）の評価事例について、情報収集を行う。

※化学物質特異的調整係数、米国 EPA では、Data-Derived Extrapolation Factor (DDEF)

参考：Evolution of chemical-specific adjustment factors (CSAF) based on recent international experience; increasing utility and facilitating regulatory acceptance
(Critical Reviews in Toxicology, volume47, 2017-Issue9)